いしかれんだより

第６６号
２０２５.３.１

石川県精神保健福祉家族会連合会
〒920-8201 金沢市鞍月東２丁目６番地
石川県こころの健康センター内
TEL (076)238-5761　FAX (076)238-5762
ホームページ　https://ishikaren.com
メール　ishikaren@outlook.jp

石家連創立 50 周年

孤立し苦悩する家族に希望の光を。

石家連の歩み(抄)

1973 (S48) 年：第 21 回精神衛生全国大会(未開催) を機に、県内保健所ごとの地域家族会結成
　同年くろゆり会 (小松)、のぞみ会 (津幡)、 あけぼの会 (山代)、輪水会 (輪島)、 むつみ会(珠洲)、くるみ会(同会を母体としてのち「泉の会(金沢)」「ひまわり会(七尾)」等)、みそぎ会 (七尾)、
1974 年：めいせい会 (門前)、心明会 (羽咋)、 みどり会 (富来)、上記 10 家族会にて石川県精神障害者家族連合会設立。会長 山崎 茂 (くるみ会)、総会員数 357 名
以下、発会年と名称；1980 年：みのり会 (宇出津)、1986 年：ちよに会 (松任)、しらぎく会(加賀神経サナトリウム)、1987 年：元町会 (金沢)、1989 年：車前草 (オオバコ)会 (同会を母体としてのち「鳴和の里すぎな会(金沢)」)、1996 年：けやきの森(金沢駅西)
2007 年 4 月「全家連」解散(発足は 1965 年)
2007 年 11 月「みんなねっと」結成
2014 年 10 月　みんなねっと石川大会開催

挿絵：『雪達磨』2025 年 谷田一成

☘ 石家連創立 50 年に思う

2025 年 1 月 31 日　浦田　洋

精神疾患に対する社会的偏見は強く,精神障害をもつ人の権利擁護団体や自助組織の始まりは他の障害に比べて著しく遅れました。

わが国で精神障害のある人の家族会が最初につくられたのは,茨城県立友部病院で 1963(S38)年に誕生した「病院家族会」でした。病長の古川復一医師,永田実男医師らが,病気の回復に家族の「理解と協力」が必要と考えて働きかけてくれてのことでした。

この動きは,東京の烏山病院,都立松沢病院,国立武蔵療養所などを皮切りに全国に広がり,1965(S40)年 9 月 4 日全国精神障害者家族連合会の結成へと進みました。

それから遅れること 8 年,本県で最初に旗揚げしたのは,小松の「くろゆり会」・80 家族で 1973(S48)年 9 月 21 日のことでした。その後,県下各地で「会」の結成が続き,1974(S49)年 2 月 25 日に 10 家族会・357 家族で「石川県精神障害者家族連合会」が結成されました。

家族会・会員が急速に増えた背景には,病気で苦しむ家族を抱え,不安におののく家族がたくさんおられたことの証にほかなりません。

また,会の結成に指導・援助を惜しまなかったのは,各地に根を張っていた保健所の保健婦(当時)さんでした。

それには,1964(S39)年のライシャワー事件以後,保健所が精神保健行政の第一線機関と位置づけられていたことや,本県で第 21 回精神衛生全国大会の開催が予定されていたことがあったようです。しかし残念ながら,全国大会は未開催に終わりました。

その後も家族会の結成はやまず,みのり会,車前草会,ちよに会,ことじ会,鳴和の里,クリエーションけやき,元町会などが続きました。

家族会が作業所を立ち上げたり,作業所に集まった家族が「会」を結成したり,規模の大きい会が地域ごとに分割するなどで発展を続けたのです。

1988(S63)年,石家連は「石川県精神障害者家族会連合会」に発展改称し,代議員制を敷き,民主的組織にと成長しました。

また,石家連は 2020(R02)年には,石川県精神保健福祉家族会連合会に名称を変更しています。

こうして昨(2024)年,石家連結成 50 年の節目を迎えたのです。

これに伴い,私は会員として「記念式典」の挙行と「記念誌」の発行を強く望んでいましたが,総会でも理事会でも未討議に終わりました。さまざまな偏見や差別などの困難を抱えながら,歯を食いしばって頑張ってきた諸先輩の苦労に報いられなかったのでは？と思うと,残念の極みとしか言いようがありません。

ところで,石家連は全国精神障害者家族会連合会(全家連)そして全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)の下部組織として,その連帯のなかで,総会・理事会の定期開催はじめ,法の制定や改正要求の取り組み,作業所設立・運営の支援,ブロック研修会や各種研修会の開催,行政や病院長等との懇談会の開催,いしかれん誌の発行などに取り組みながら,半世紀がんばりぬいてきました。

多くの諸先輩のご努力,支えてくださったこころの健康センター(その前身を含む)の皆様に,改めて敬意と感謝を捧げたく思います。

書かなければならないこと,書きたいことはつきませんが,紙面の制約もあり,勝手ながら２つに絞らせていただきます。

１つは,石家連と同じく会員の心の拠り所であった「全家連」が解散に追い込まれたことです。1996(H08)年,精神障害に苦しむ人の社会復帰支援を目的に,全家連が,全国からの募金と厚労省からの補助９億2000万円を含む計20億円をかけて立ち上げた宿泊施設メインの「きつれ川」の運営を,社会福祉法人全国精神障害者社会復帰施設協議会(略称全精社協)に運営を委託していましたが,使途不明金数千万円を含む乱脈経営の挙句 2002(H14)年借入金の返済に国の補助金を当てていたことが発覚しました。これにより委託団体全家連は９億円の負債を抱えて破産・解散に追い込まれたのです。全家連は再度全国に全家連再建のカンパを呼びかけました。

石家連はじめ家族会は積極的にこれに応じたのですが,焼け石に水で再建はなりませんでした。

代わって中央組織として「みんなねっと」が結成されました。石家連はこれに参加・加盟するにあたって,十分な討議がないまま,とにかく「中央組織がなくては運動に支障をきたす」ということで加わることになりました。

「全家連破綻」という大事件から学び取るべき教訓を全会員に徹底する努力が十分でなかったことが,石家連発展の障害になったことを忘れてはならないのではないでしょうか。

当時の全家連の理事・職員の多くは会を逃げ出し,一部は地域精神保健福祉機構(略称・コンボ)の結成に走ったことはご承知のとおりです。

もう一つ,忘れられないのは2014(H26)年に開催した第７回全国精神保健福祉家族大会（みんなねっと石川大会）のことです。

その３年前,みんなねっと理事会は,第７回全国大会を北信越ブロックで開くと決めていました。これを受けて,5県の会長会議で協議が続いていましたが,1987年に新潟,2006年に長野が「全国大会」開催を終えていることから,今回は「北陸３県」に絞り込まれ,結局,石川に白羽の矢が刺さったのです。

ところが,石家連が開催を引き受けたのと同時に,当時の会長は体調不良を理由に辞任。波乱のスタートとなりました。

なんとか,後任の会長は決まりましたが,事務局長の引き受け手がなく,会長が兼務することになりました。

大会の推進役＝実行委員会を,みんなねっと本部,県・市当局,日本精神科病院協会県支部,石家連など15名からなる実行委員会(計５回開催)は組織されましたが,大会実行委員長と実行委員会事務局長を石家連会長が兼務することになったのです。

加えて大会の数ヶ月前になって,みんなねっとの理事長・事務局長が交代するというハプニングもあり,「不安」いっぱいで大会を迎えることになりました。

前年に精神保健福祉士の皆さんの全国大会がありましたが,前述した1973(S48)年に予定されていた第21回精神衛生全国大会が中止になっていましたので,家族会が関わっての全国大会は本県では初めての開催でした。

期日は2014年10月16・17日,会場は金沢歌劇座・県社会福祉会館,基調講演講師は精神科医の夏苅郁子さん。５つの分科会に分かれて協議が続きましたが,指導・助言は,こころの健康センター角田雅彦所長らが務めてくださいました。

大会の背後には,県内を駆け巡り,広告をとり,財政を支えた会員,１千万円を超す会計実務を,１円の使途不明金も出さず立派に執行した会員,3000 部近い案内状や関係資料の袋詰めや発送に手弁当で終日頑張りぬいた会員,その他,例を挙げればきりがありませんが,石家連「ここにあり！」の意気込みで尽力された多くの方々の協力がありました。

これに応え,全国各地から 1100 名が参集してくださり,大会は「成功」したのでした。
当時から,「九牛の一毛」で生きてきた老い耄れが,求められるままに綴ってみました。御笑読いただければ幸いです。

『家族会と行政との懇談会』

令和６年度質疑応答の概要

馳県知事宛「いしかれん」要望書に対する県側担当者との懇談会が昨年 11 月 26 日開催されました。以下にその概要をまとめましたので今後の家族会活動にお役立ていただければ幸いです。(H)

石川県側出席者：障害保健福祉課在籍者３名

【1】精神障がい者手帳２級所持者への医療費助成の実施。令和 6 年 10 月県議会にて再度請願が採択された。既に実施済みの 6 県と同様、県市町による医療費助成を。何年も要望しているが一向に進まない、是非来年度からの実施を。

⇒県では他県や能美市の取り組みを勉強中です。実施するためには予算の試算が必要だが、未着手。時期についてはこの場に権限のある者がいないのでお答えできないが、来年度中は無理かと思います。

【2】平成 30 年よりスタートした重度障がい者や高齢障がい者を受け入れる 24 時間介護人がいる日中支援型グループホームを増設してほしい。県内の実態数の掲示、夜間の急性精神症状に対処できる体制整備もお願いしたい。

⇒県内では 300 超の精神障害者グループホームがあるが、日中支援型は 6 軒のみ。新規事業者を支援する体制づくりを進めたい。また、県では夜間精神科医療体制を作っており 24 時間対応している。県のホームページを参照してほしい。

【3】障がい者が 65 歳になると介護保険サービスへ移行となるが、一般の高齢者施設に入所する場合、障害者サービスは支障なく存続できるのか。重度障がい者専用の高齢者施設を作ってほしい。

⇒県としては個別に柔軟な対応をお願いしている。国も一概に判断できないとしている。

【4】80-50 親子・親亡き後一人暮らし障がい者への相談支援・生活介護サービスの充実、日中支援型グループホームへの受け入れを。

⇒相談員訪問サービスもある。市町に申し込んでほしい。日中支援型 GH は地域の実情に合わせ県も推進している。

≪家族会より≫「ＡＣＴ」と呼ばれる取り組みが注目されているが、県での検討はしているか。

⇒国にも県にもそのような報酬制度はないし、よく知らないので勉強したい。

【5】障がい年金の更新時必要な診断書が高費用、全額助成を。

⇒金額は病院によって決められているので県では何とも…。他事業との兼合いもあり慎重にならざるを得ない。

【6】精神障がい者への就労支援の充実を。時短雇用等特性に応じた職場対応、ニーズが多いＢ型作業所の作業環境の充実と賃金の向上を。

⇒作業所ごとに多様な取り組みが可能となるよう県も推進している。

【7】家族への暴力や他人への暴力があった場合、警察・生活安全課から入院等の対応を。

⇒そういった恐れのある方は通報してほしい。行政処分で入院させることもできるが、人権に配慮する必要がある。生活安全課とは年１回連絡会で連携している。

【8】医療面で①心身面でどうしても通院できない人への訪問診療②「こころのカウンセリング」等での相談や心理士・ソーシャルワーカー等のチームでの対応を③病院の安全管理の充実を。

⇒①取り組んでいるので地域包括支援センターもしくは病院に相談してほしい。②主治医に相談してもらえば、その判断により必要に応じるはず。③各病院には虐待防止として年１回実地検査を実施している。プライバシーにも配慮しなければならない。問題がある場合には年度末に公表される。

以上

いしかれん
令和７年度

団体法人　10,000 円
個人　2,000 円

賛助会員募集のお願い

石家連は会員相互の親睦と福祉制度充実を目指して県内９つの家族会で活動しています。何卒、賛助会員としてご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。賛助会員に関するお問い合わせは事務局　090-3297-9989 迄。

(法人会員)・松原病院　・医王ヶ丘病院　・岡部病院　・岡部診療所
・ひろメンタルクリニック・かないわ病院・ときわ病院・かとうクリニック
・GENESIS ㈱　・㈱ ONE HAPPINESS CC　・㈱ Belle

(個人会員)・紐野義昭（２口）・森　一敏（２口）・別宗利哉・道見藤治・アマダ

☆(順不同・敬称略)ご入会、ご更新頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

☘「親なきあとの自立支援」について

野々市市障害者基幹相談支援センター　主任相談支援専門員　橋　直

令和６年５月２８日に貴会主催の研修会で標記のテーマでお話をさせていただきました。同年１月に能登の震災が起き、４月には精神保健福祉法改正があったため、欲張りな私はテーマを絞りきれず、お聞き苦しかったのではないかと反省しております。改めてこの書面をお借りして「親なきあと」について整理してお伝えしたいと思います。

まず、あえて「親亡き」ではなく「親なき」と表す意図は、８０５０問題に象徴される親子の高齢化だけではなく、お互い若くても緊急な状態が生じる可能性があるということです。養護者が病気やケガで入院をしたり、災害などで大きく家族環境が変わってしまうことも状況としてありえますので、多様な状況を想定して考えておく必要があります。それぞれの家庭の状況や本人の能力によって違いはありますが、本人が一人になった状態を想定して考えておきたいポイントがあります。１つは経済面です。障害年金や精神保健福祉手帳、自立支援医療など制度の利用、金銭の管理方法などです。この点は皆さまもよくご存じだと思いますが、医療機関のソーシャルワーカーが相談の窓口になることが多いと思います。

それ以外にも生活を送るためには、医療、住まい、仕事、家族関係、地域とのつながり、必要な時に SOS が届くこと、意思決定支援などの欠かせないものがたくさんあります。それらに対応するサービスはありますが、何から何まで、いつどこから手をつけたらいいのか混乱してしまいます。

そんな時こそ、お住いの地域の「障害者基幹相談支援センター」に相談して下さい。現在困っていることや将来への不安などをお聴きし、状況を整理して何が必要なのかを本人と家族と一緒に考えます。その上で必要なサービスや制度につなげることができる総合相談窓口なのです。もちろん、すでに何らかの福祉サービスを利用しており担当の相談支援専門員がついている方はそこで何でも相談して頂けることが望ましいです。

まだまだ聞き慣れない基幹相談支援センターですが、実は国の政策では各市町に 100%の設置・整備を目指しています。※令和 7 年 1 月現在で石川県は 19 市町のうち 7 市が設置済み（36%）全国平均は 60%越え（R3 年時点で 53%）

数値を見てもわかるように石川県は全国と比べて整備が遅れています。障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには必要な機関ですので、能登の復興と共に相談支援体制の整備・強化も急務だと感じています。ぜひ、皆さまの地域で確認していただくことをお勧めします。

※未設置の市町においては、役所の福祉担当課が窓口になります

石家連　一人で悩まず、お電話ください。秘密厳守。

家族会による相談

☎ 076-238-5761
✉ ishikaren@outlook.jp

♥ 電話による相談（“家族会による相談希望”とお伝えください。）

♥ 直接お会いしての相談

【日時】祝日を除く　毎週月曜日　11：00～14：00

【場所】石川県こころの健康センター内（金沢市鞍月東 2-6）

♥ メール・ホームページからの相談もお待ちしています。

赤い羽根
共同募金
助成事業

☘ その人らしい生活と精神看護

金沢医科大学　看護学部教授　長山　豊

令和６年度家族会と病院長等との懇談会で「その人らしい生活と精神看護」というテーマで講演をさせて頂きました。私は精神科看護師として臨床にいた頃に、双極性障害をもつ当事者と共に暮らす家族の体験についてインタビュー調査を行いました。この研究結果をご紹介したうえで、ご家族自身が回復していく上でどのようなことが重要なのかをお話しさせていただきました。

ご家族は、家族の一員が精神疾患を発病した際にショックや不安を受けておられました。そして、以下の表にあるように、本人が病状悪化した経過を振り返り、ご自身の関わり方や育て方を振り返り、後悔や反省の気持ちを話されておられました。また、ご家族は、たとえば「うつ症状がある時には励まさない」など病気に対する一般的な関わり方は医療者から聞いているけど、実際には気分の波や不安定さがあり、患者にどのように接したらよいか分からないと感じておられました。そして、入院をきっかけに、ご家族は本人の症状の変動と生活行動の関連について理解を深め、入院環境で多様な人々と交流する中で本人が回復するきっかけを掴んでほしいし、本人の社会的自立に向けてサポートしたいという思いが強まっていました。

表　双極性障害の子を抱える親の思い　（長山，2011）

カテゴリー	サブカテゴリー	コード名
病状悪化につながる生活環境への反省	病状悪化した経過の振り返り	厳しい環境に耐え続けてきたのだろう
		本当によく頑張っていた時期があった
	親の関わり方・育て方への後悔	愛情不足を感じさせるような育て方をしたのではないか
		ストレスが強い時期にプレッシャーを与えてしまったと後悔する
		周囲に病気を悟られないようにふるまうことへの不憫さ
治療的な親役割を果たすことへの困難感	子の症状に適切な対応がわからない	自己表現が苦手
		激励・制止をせずに関わる方法が見いだせない
		毅然とした態度で接するべきか悩む
		環境変化に適応するのが難しい
	退院後に共生することへの不安	家の中では親の言う事を聞かないことへの不安
		予測できない大胆な行動をとりそうで怖い
症状管理と社会的自立を並行する関わり方の希求	入院を契機とした変化への期待	入院環境での他者との関わりによる子の良い変化への期待
		社会的自立へ向けた手助けをしたい
	病気を抱えた子への理解の深まり	躁うつの波と子の言動の関係に気づく
		子が気分転換できる手段を持つ事は大切

私は当時、インタビュー調査という枠組みの中でご家族の話をじっくりお伺いする機会をいただき、ご家族は精神疾患をもつ当事者である本人を中心に見据えて、本人にとって支えとなる接し方を試行錯誤しながら模索しておられました。インタビューの中で、ご家族は積もり積もったご本人への複雑な感情を吐露されておられました。私は精神科看護師として、ご家族のご本人に対する葛藤・不安・後悔・期待・希望などの様々な思いを、しっかりと足を止めて話を聴き、受け止めてきただろうかと反省の気持ちで胸がいっぱいになりました。この体験から、私は看護職が患者さんだけでなく、ご家族が患者さんと共に安心して暮らせるよう支援することが大事だと思っています。

また、講演では、ご家族の皆さん自身が回復していく上での重要な心理や感情をお伝えしました。何とかなるかもしれないという「希望」の感覚、家族は一人ではなく誰かに支えられているという「安全保障感」や「つながり」の感覚、家族の本人にとっての関わりが本人の回復に貢献していると感じられるような「対処可能感」、そして、家族自身も１人の市民として普通に生活していってよいのだと感じるような「自己肯定感」などを、ご家族が精神疾患をもつ当事者の方と共生する上で感じられるかが重要です。たとえば、ご家族が本人の精神疾患によって対処困難な状況に陥っているとしたら、問題として捉えている現象をご家族・本人・支援者と共に見つめながら、お互いにより良い解決策について対話を通して探っていくことができます。また、ご家族が本人との「ちょうどよい」距離感を模索しながら、ご家族自身の「その人らしさ」を大切にしてもらい、ご家族がやりたいことや取り組みたいことを我慢せずに行えるような環境づくりができるといいなあと思っています。そのような意味で、家族会で皆さんが語り合い、「自分だけが悩んでいるのではなかった」「思いを受け止めてもらえた」と、当事者を支える同士として仲間がいることを発見し、相互に安心感を抱いたり、癒されたりしているかもしれません。また、家族会で、本人への支援につながる有益な情報交換ができたり、他のご家族の方の関わり方を参考にして本人への手助けを具体的に検討できたりするかもしれません。家族会は、ご家族同士がつながりあい、支え合える環境として、非常に重要な心の居場所になっているのではないかと感じております。

精神科の看護師が果たす役割としては、患者さんご本人だけでなく、ご家族がご自身に備わっている力が失われず、ご自身の力を最大限に発揮できるように、そして、ご自身の健康と楽しみを大事にできるような生活をしていただけるように、相談役として関わることが重要だと考えます。精神科看護師は、精神疾患を抱えるご家族にとって、本人の療養生活へのサポートにおいて困ったことを相談できる拠り所の１つとなり、かつ、精神疾患に伴う困りごとを一緒に対応方法を考えるパートナーとして存在できたらと考えています。ぜひ、ご家族の皆さんには、どんな小さなことでもよいので、気になる事、不安な事、話を聴いてほしい事など、看護職に気軽に相談してほしいと願っています。

金沢市 精神障害者家族連合会と石家連と全国1122か所の家族会		
むつみ会	輪水会	ひまわり会
鳴和の里すぎな会	けやきの森	泉の会
ちよに会	くろゆり会	しらぎく会

□■能登被災地家族会にみんなねっと募金をお届け!!■□

昨年元日に能登を襲った地震により多くの方々が被災されました。昨年６月２６日、みんなねっとよりお預かりした募金をお届けするため、石川県精神保健福祉家族会連合会（石家連）に属する珠洲市「むつみ会」、輪島市「輪水会」、七尾市「ひまわり会」の各家族会代表者を訪ねました。

義援金をお寄せいただいた皆様、並びにご尽力いただいた方々に深く御礼申し上げます。

以下、各地の模様をお知らせします。

珠洲市では、「むつみ会」事務局が置かれている社会福祉法人「すず椿」に理事長宮野修氏、障害福祉サービス事業所施設長坂下祐介氏に面会し、募金の目録をお渡しし、被災状況をお聞きしました。

むつみ会では登録する10家族すべて被災、田中会長宅を始め半壊以上５件、一部損壊５件とのことで、被災状況に応じ各家族に分配していただくことになりました。

家族会の活動状況をお伺いしましたが、高齢化でもはや集合することもままならず、震災前には解散も検討していたとのこと。更に震災で会長含め各家族は各地に避難しており、今後の活動は全く見通しが立たない、とのことでしたが、宮野氏よりできるだけサポートして継続させていきたい、とのお話でした。

町中を歩くと崩壊した家屋・瓦礫の山が続き復興の道は遠いと感じざるを得ませんが、「すず椿」で運営する作業所、グループホーム施設は幸い継続できており、また新しく定員を増やしたグループホームでも新規入居者があり、今年度は黒字化が見込めるとのことでした。この施設が珠洲の障害者・ご家族にとって希望の光になれば、と思わずにはいられません。

輪島市では、「輪水会」には、輪島市ふれあい健康センター近くにある喫茶翁（おきな）にて、輪水会会長の園正由氏に面会し、募金の目録をお渡しし、被災状況をお聞きしました。

輪水会では所属する４家族すべて被災、半壊以上１件（未だに金沢市内に避難中）、一部損壊３件とのことで、被災状況に応じ各家族に分配していただくことになりました。

家族会の活動状況をお伺いしましたが、現時点輪島市内では断水も一部解消されないままであり、多くの家屋の瓦屋根が損傷および破損している状態で、今後の活動に関しては、８月以降に改めて各家族へ連絡をとりながら活動の現状維持に努めていきたい、とのお話でした。

七尾市では、「ひまわり会」には、医療法人社団松原会七尾松原病院に隣接する自立訓練事業所ピアハウス内にて、ひまわり会会長の竹林昭信氏をはじめ、松原会より河元寛泰氏にもご同席いただき面会し、募金の目録をお渡しし、被災状況をお聞きしました。

ひまわり会では所属する被災者は、半壊規模以下の住民は少しずつ自宅に戻りつつあります。当初より指定福祉避難所は機能しておらず、避難所に避難されている被災者への飲食の支給は続いているが、３月以降は缶詰や冷凍ご飯等に変わりはじめ、この先の生活や健康状態に不安を感じている人も多い、とのお話でした。

写真左より石家連中谷会長、宮野氏、
石家連旗常務理事

写真左より石家連武副会長、
輪水会園会長

写真左より石家連武副会長、
ひまわり会竹林会長

震災により破壊された珠洲の町。見附島（軍艦島）も崩れかつての面影はない。

（追記）

上記の他、追加で義援金をいただき、10 月に珠洲、輪島、七尾の各家族会にお渡し致しました。
1 次分と 2 次分を合わせ、義援金総額は 2,740,224 円となりました。
みんなねっとを通じ義援金をお寄せいただいた全国の皆様に重ねて深く御礼申し上げます。
（石家連一同）

編集後記

“いしかれん 50 周年！経験！”

◎さまざまの、困難を生き抜いた当事者と家族の経験は、私たちの社会を支える大切なリソース(資源)です。◎対話実践を基盤に置いて、経験に学び、それを活かしながら、豊かな地域のネットワークを実現しよう。(N)

★今回初めて編集に加わりました。石川県馳知事は事あるごとに福祉の充実を謳いますが、実情はお寒いと言わざるを得ません。精神障害者は日々の生活費にも事欠く方が多いのですが、糖尿病・高血圧など継続的な治療の必要がある、また感染症など気になるにも関わらず、節約のためと治療を控える方が多いのです。他県でも導入が進む精神障害者手帳２級所持者の医療費助成を来年度からでも実施していただきたいと願います。(H)

★立春が過ぎ、暑さ寒さが繰り返しやってきます。まさに 三寒四温です。桜の花が咲き誇る光景を見られるのもあと少しです。 各単会では来年度の活動計画に向けて、知恵を絞りながら話し合いを行っている頃かと思います。コロナの規制もほぼなくなった今、皆様と共に活動を継続する想いと活動をより活性化していく新たな行動を、自由な発想でアイデアを出し合いながら、長年の懸案である「会員減少と 高齢化」に風穴を開けるような活動計画ができればと願っています。新年度も感謝の心を忘れず、日々報恩の行を積んで参ります。(B)